

## D 施設入所者

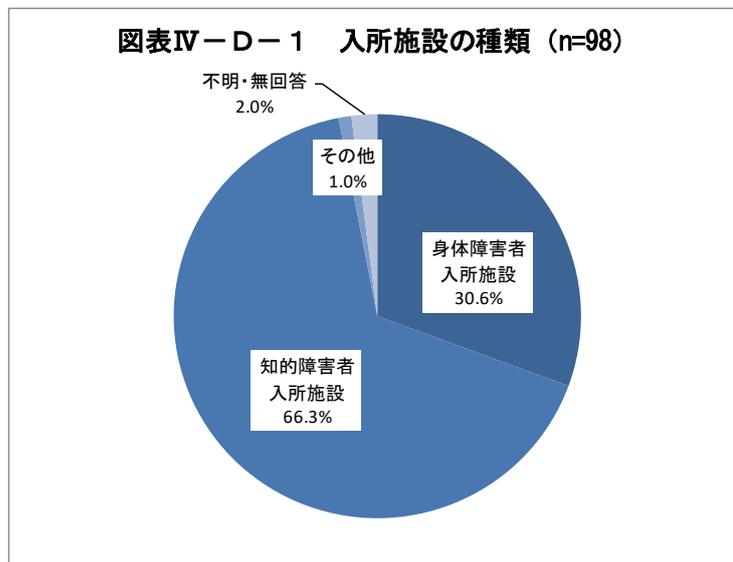


## 1 生活の場について

### (1) 入所施設の種類 (問4)

現在、どこの障害者入所施設に入所しているかをたずねた。

「知的障害者入所施設」は、66.3%、「身体障害者入所施設」は、30.6%である。



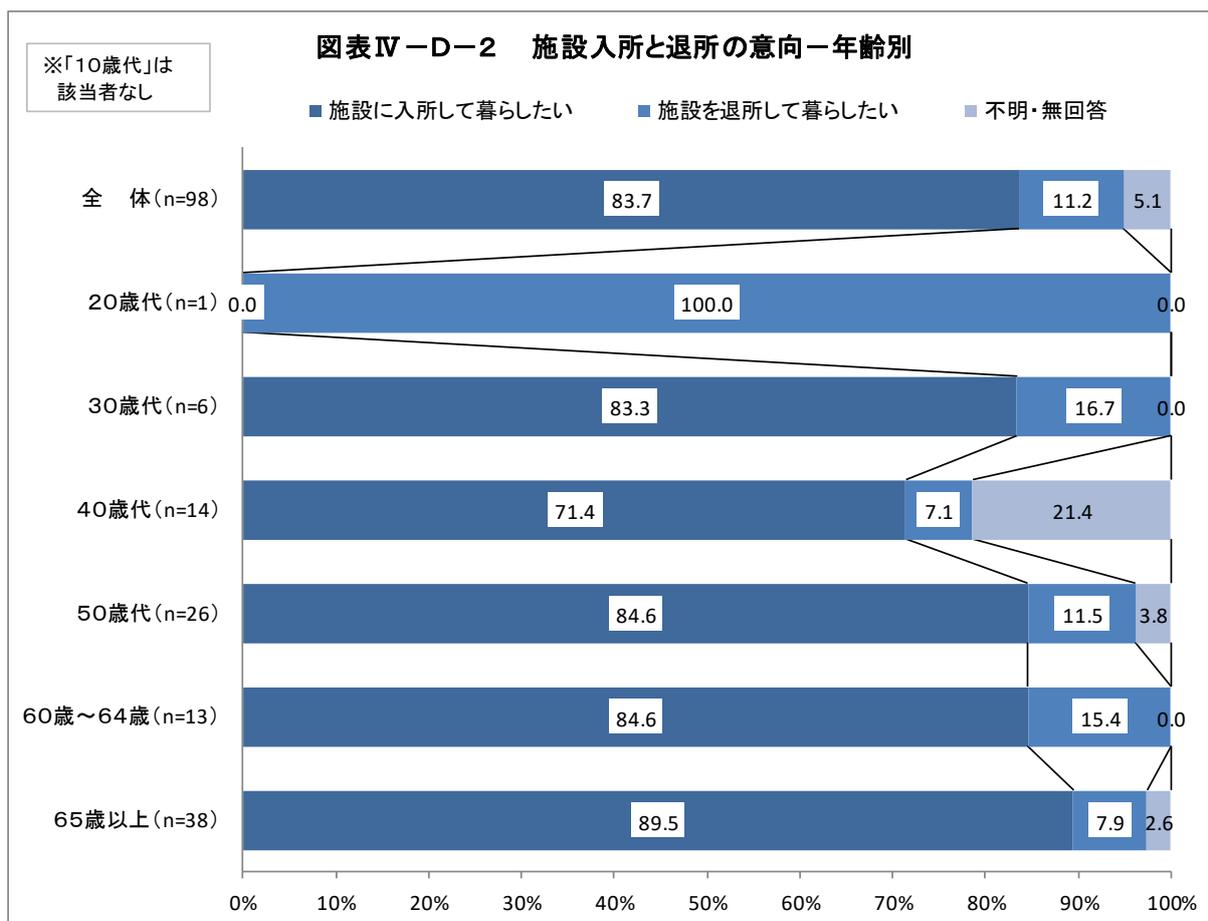
## (2) 施設入所と退所の意向 (問5)

今後、どこで暮らしたいかをたずねた。

「施設に入所して暮らしたい」は、83.7%、「施設を退所して暮らしたい」は、11.2%である。

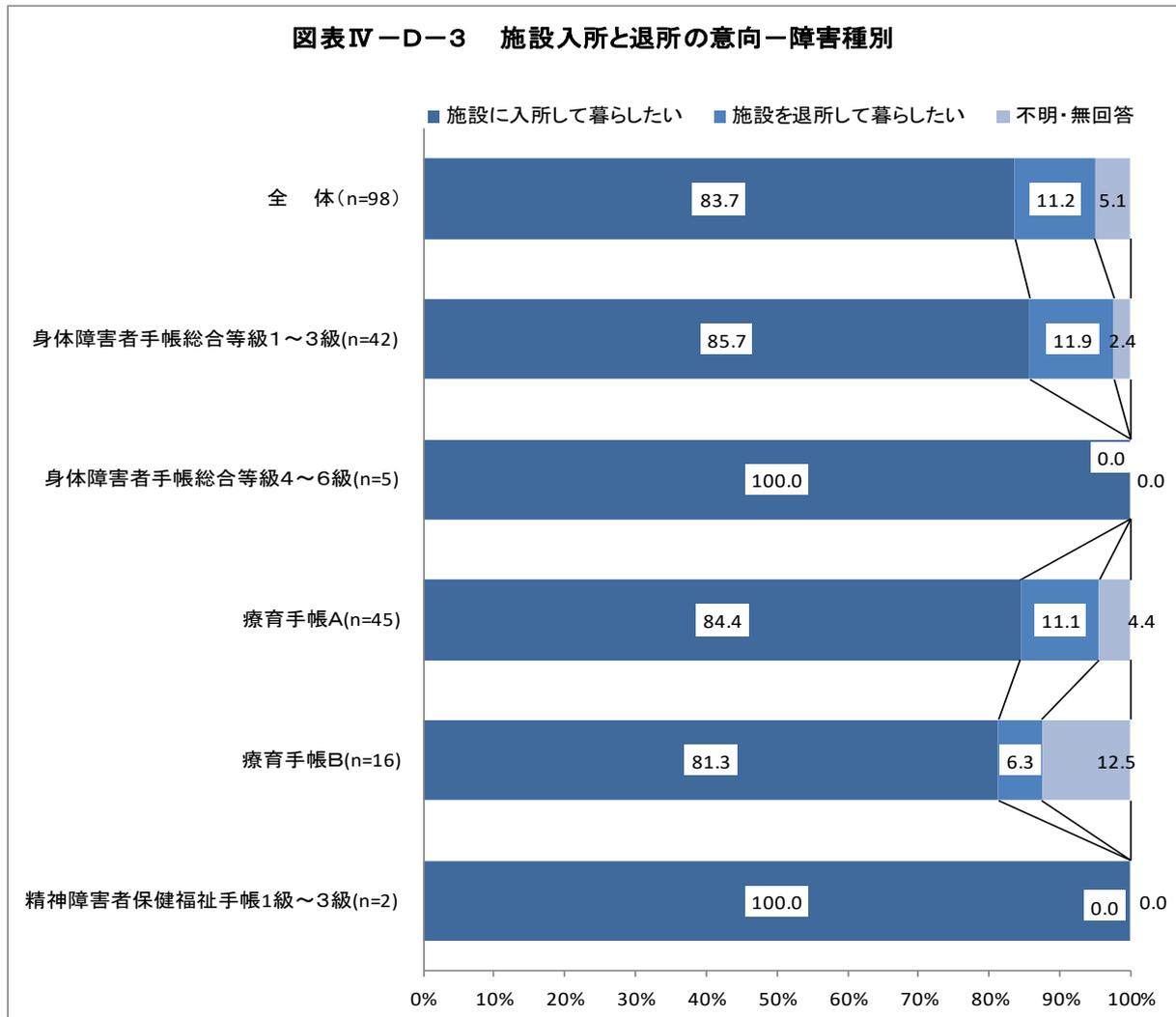
【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「施設に入所して暮らしたい」は、65歳以上が89.5%、次に50歳代と60歳～64歳が84.6%である。

「施設を退所して暮らしたい」は、20歳代が100.0%、次に30歳代が16.7%である。



【障害種別】他の障害種別と比較して割合の高かった回答を見ると、「施設に入所して暮らしたい」は、身体障害者手帳総合等級4～6級と精神障害者保健福祉手帳1級～3級が100.0%である。

一方、「施設に退所して暮らしたい」は、身体障害者手帳総合等級1～3級が11.9%、次に療育手帳Aが11.1%である。

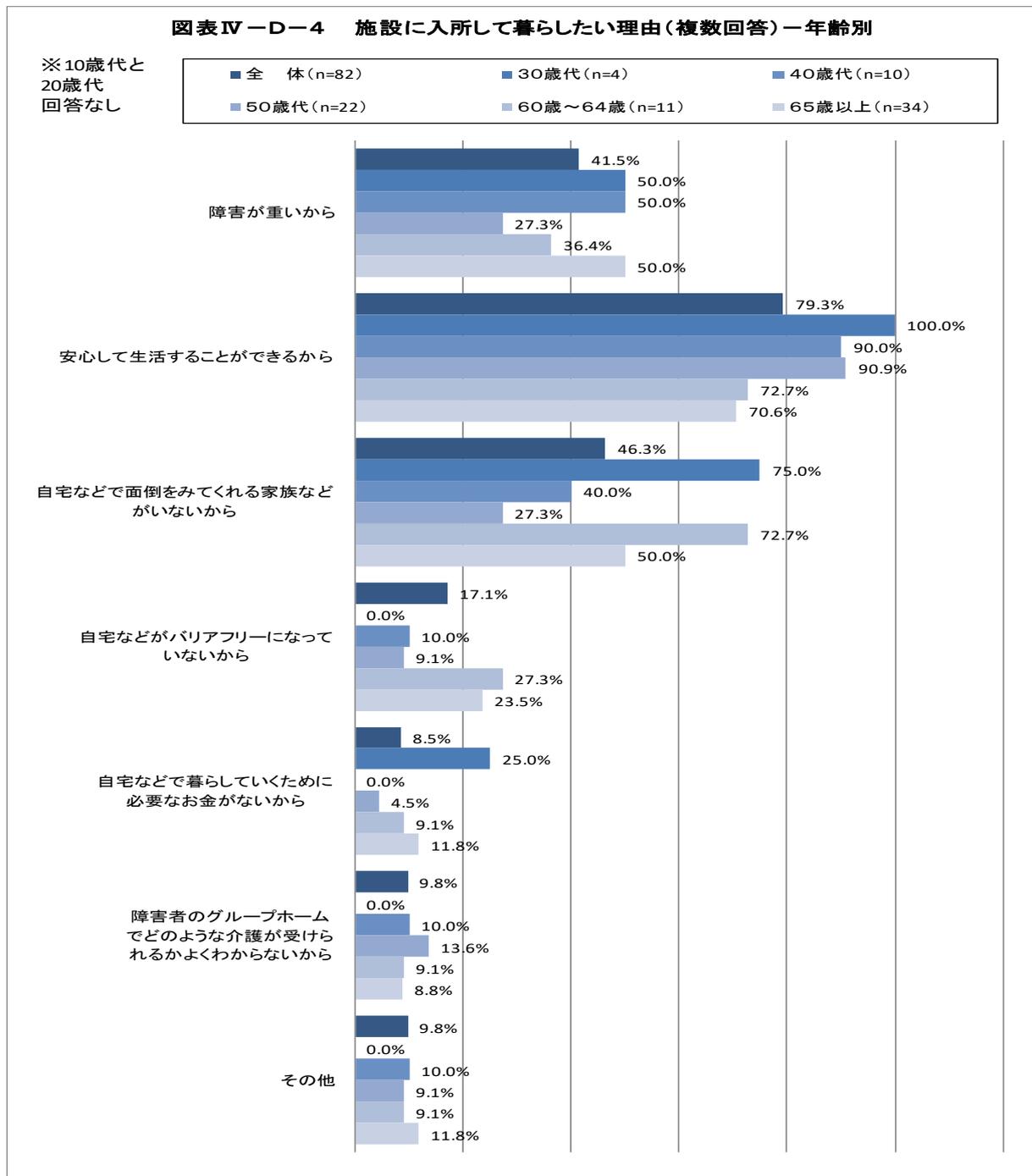


### (3) 施設に入所して暮らしたい理由（問6）

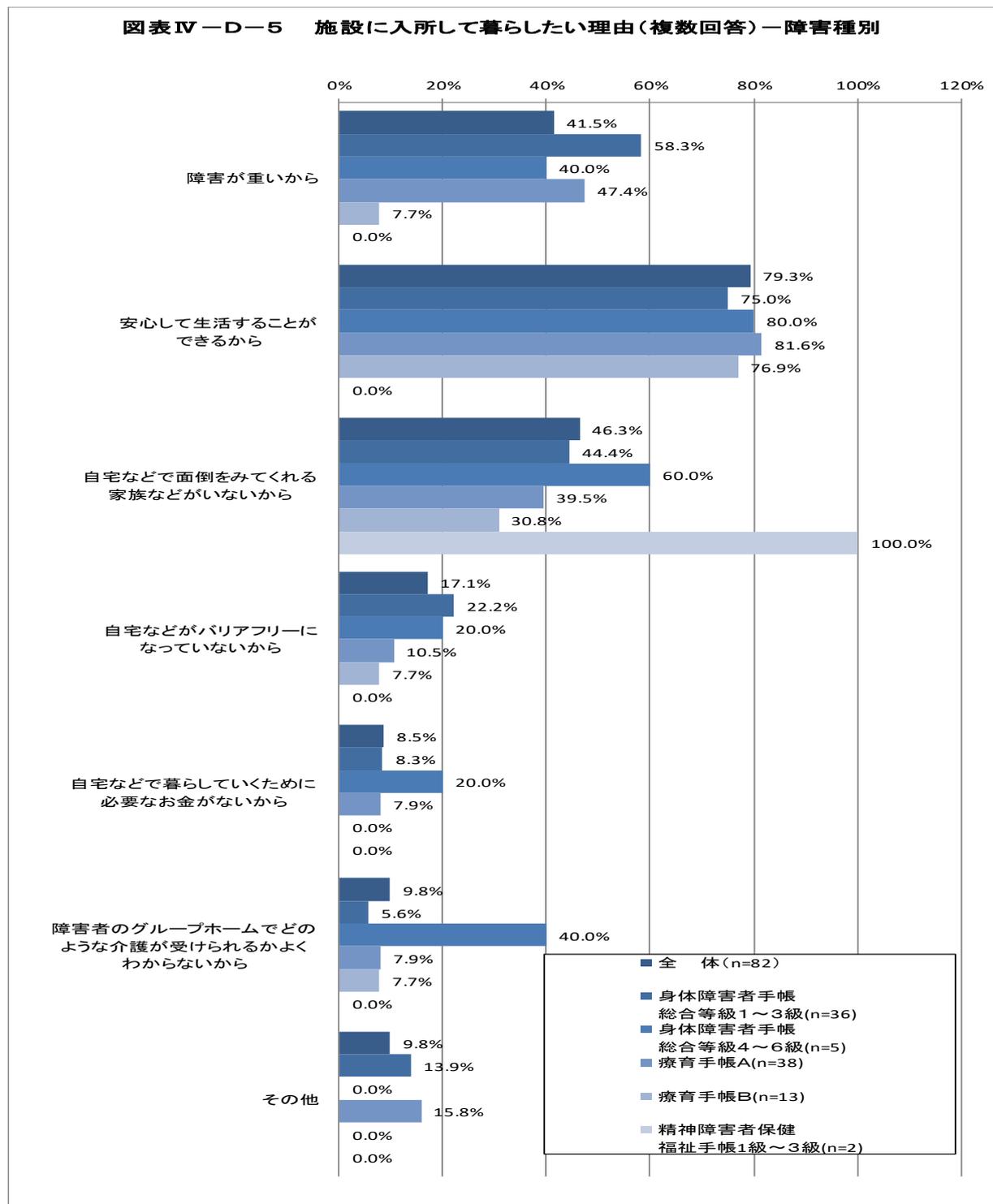
問5で「施設に入所して暮らしたい」と回答した人に、その理由を複数回答でたずねた。

「安心して生活することができるから」は、79.3%、「自宅などで面倒をみてくれる家族などがないから」は、46.3%、「障害が重いから」は、41.5%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「安心して生活することができるから」は、30歳代が100.0%、次に50歳代が90.9%である。「自宅などで面倒をみてくれる家族などがないから」は、30歳代が75.0%、次に60歳～64歳が72.7%である。「障害が重いから」は、30歳代と40歳代と65歳以上が50.0%である。



【障害種別】他の障害種別と比較して割合の高かった回答を見てみると、「安心して生活することができるから」は、療育手帳Aが、81.6%、次に身体障害者手帳総合等級4～6級が80.0%である。「自宅などで面倒をみてくれる家族などがないから」は、精神障害者保健福祉手帳1級～3級が100.0%、次に身体障害者手帳総合等級4～6級が60.0%である。「障害が重いから」は、身体障害者手帳総合等級1～3級が58.3%、次に療育手帳Aが47.4%である。

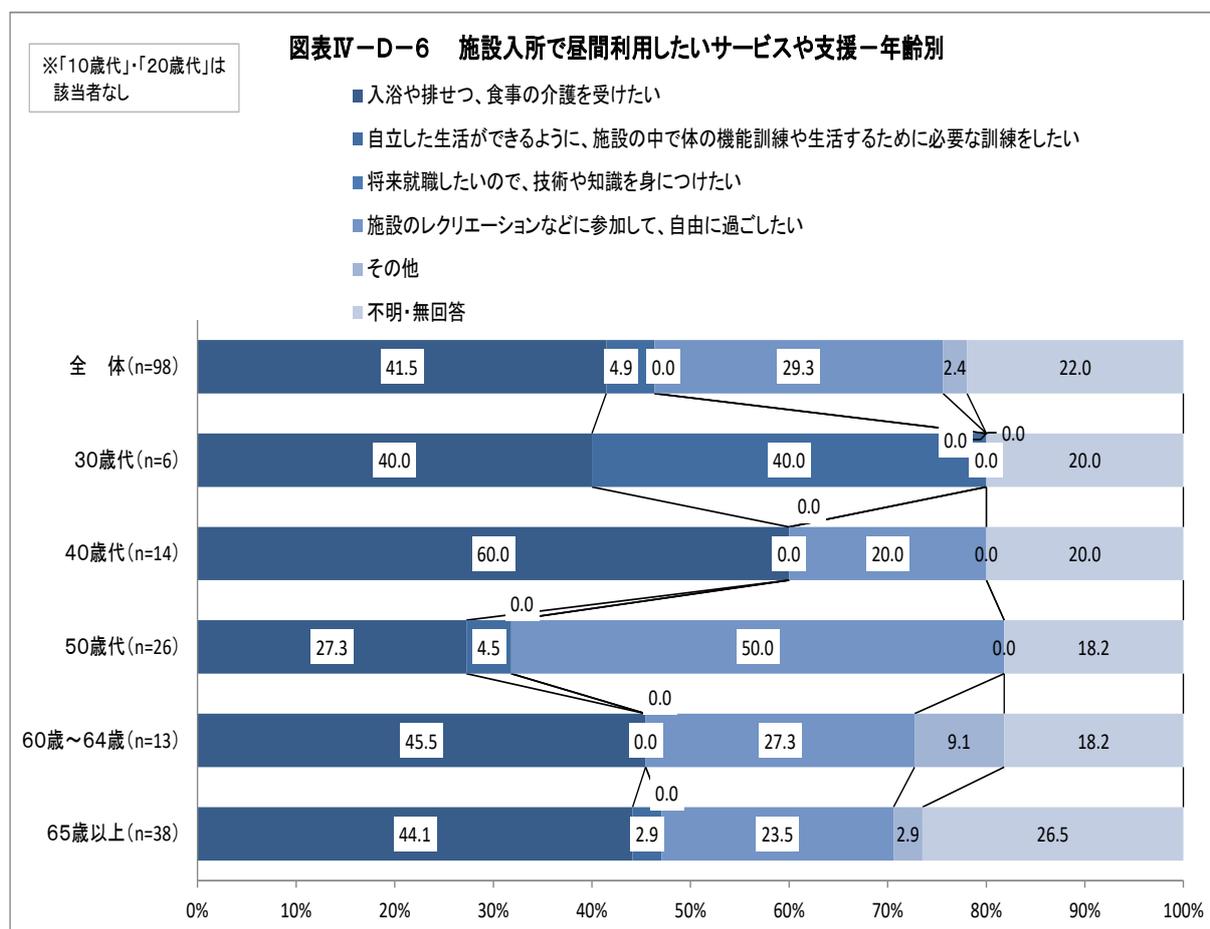


#### (4) 施設入所で昼間利用したいサービスや支援（問7）

問5で「施設に入所して暮らしたい」と回答した人に、昼間どのようなサービスや支援を利用したいかをたずねた。

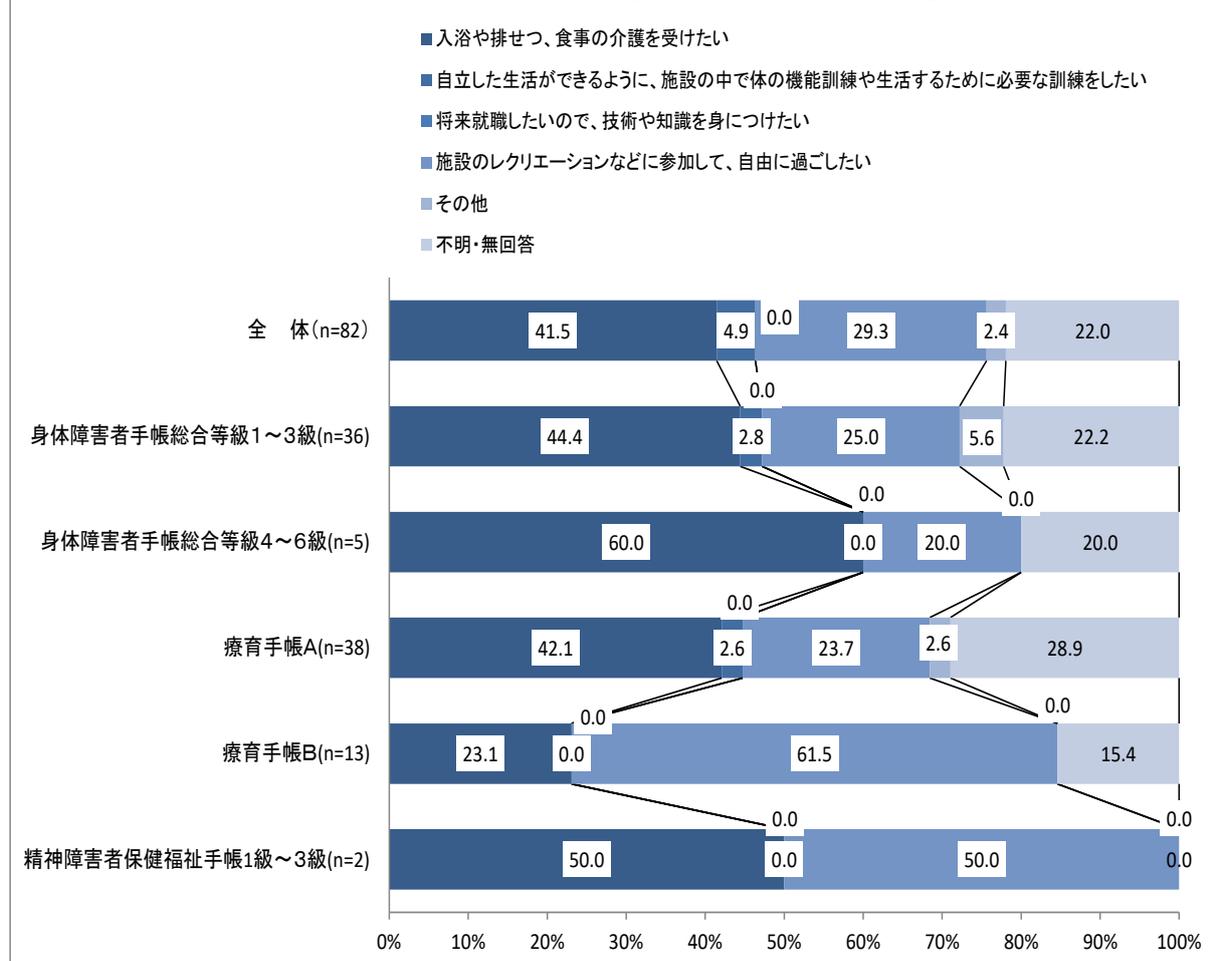
「入浴や排泄、食事の介護を受けたい」は、41.5%、「施設のレクリエーションなどに参加して、自由に過ごしたい」は、29.3%、「自立した生活ができるように、施設の中で体の機能訓練や生活するために必要な訓練をしたい」は、4.9%である。（不明・無回答は除く）

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「入浴や排泄、食事の介護を受けたい」は、40歳代が60.0%、次に60歳～64歳が45.5%である。「施設のレクリエーションなどに参加して、自由に過ごしたい」は、50歳代が50.0%、次に60歳～64歳が27.3%である。「自立した生活ができるように、施設の中で体の機能訓練や生活するために必要な訓練をしたい」は、30歳代が40.0%である。



【障害種別】他の障害種別と比較して割合の高かった回答を見てみると、「入浴や排泄、食事の介護を受けたい」は、身体障害者手帳総合等級4～6級が60.0%、次に精神障害者保健福祉手帳1級～3級が50.0%である。「施設のレクリエーションなどに参加して、自由に過ごしたい」は、療育手帳Bが61.5%、次に精神障害者保健福祉手帳1級～3級が50.0%である。「自立した生活ができるように、施設の中で体の機能訓練や生活するために必要な訓練をしたい」は、身体障害者手帳総合等級1～3級が2.8%、次に療育手帳Aが2.6%である。

図表Ⅳ-D-7 施設入所で昼間利用したいサービスや支援－障害種別

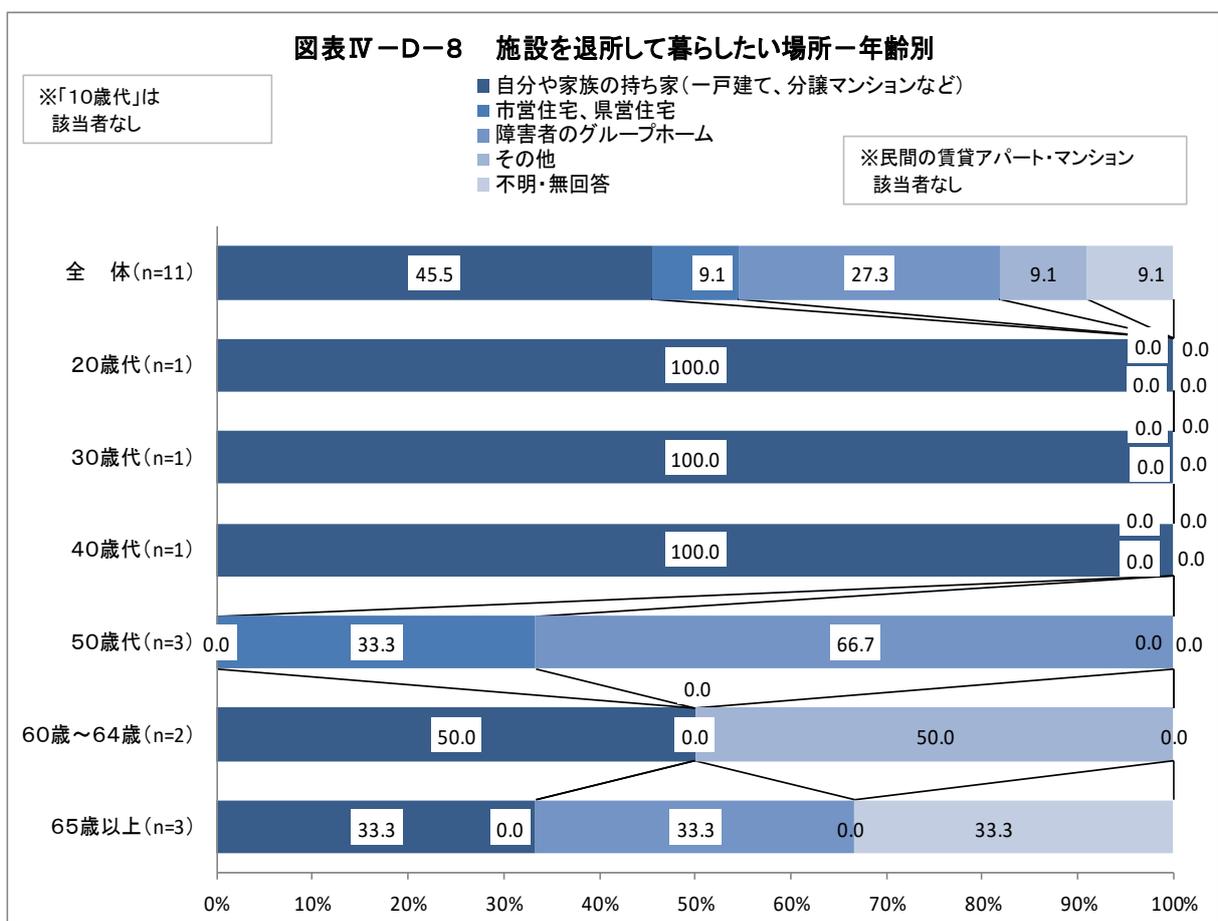


(5) 施設を退所して暮らしたい場所 (問8)

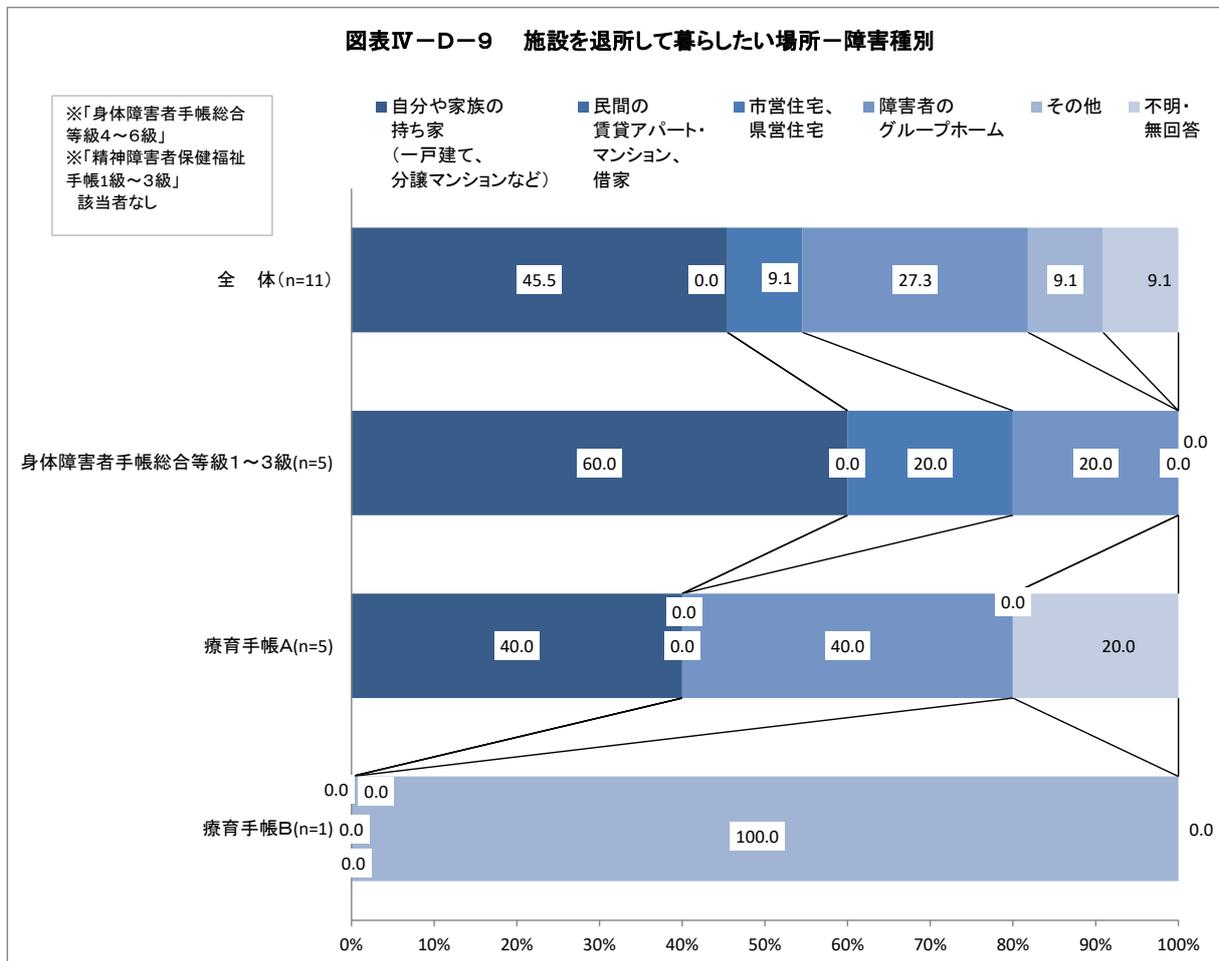
問5で「施設を退所して暮らしたい」と回答した人に、どこで暮らしたいかをたずねた。

「自分や家族の持ち家」は、45.5%、「障害者のグループホーム」は、27.3%、「市営住宅、県営住宅」と「その他」は、9.1%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「自分や家族の持ち家」は、20歳代と30歳代と40歳代が100.0%である。「障害者のグループホーム」は、50歳代が66.7%、次に65歳以上が33.3%である。「市営住宅、県営住宅」は、50歳代が33.3%である。



【障害種別】他の障害種別と比較して割合の高かった回答を見てみると、「自分や家族の持ち家」は、身体障害者手帳総合等級1～3級が60.0%、次に療育手帳Aが40.0%である。「障害者のグループホーム」は、療育手帳Bが100.0%、次に療育手帳Aが40.0%である。「市営住宅、県営住宅」は、身体障害者手帳総合等級1～3級が20.0%である。



#### (6) 施設を退所しない・できない理由 (問9)

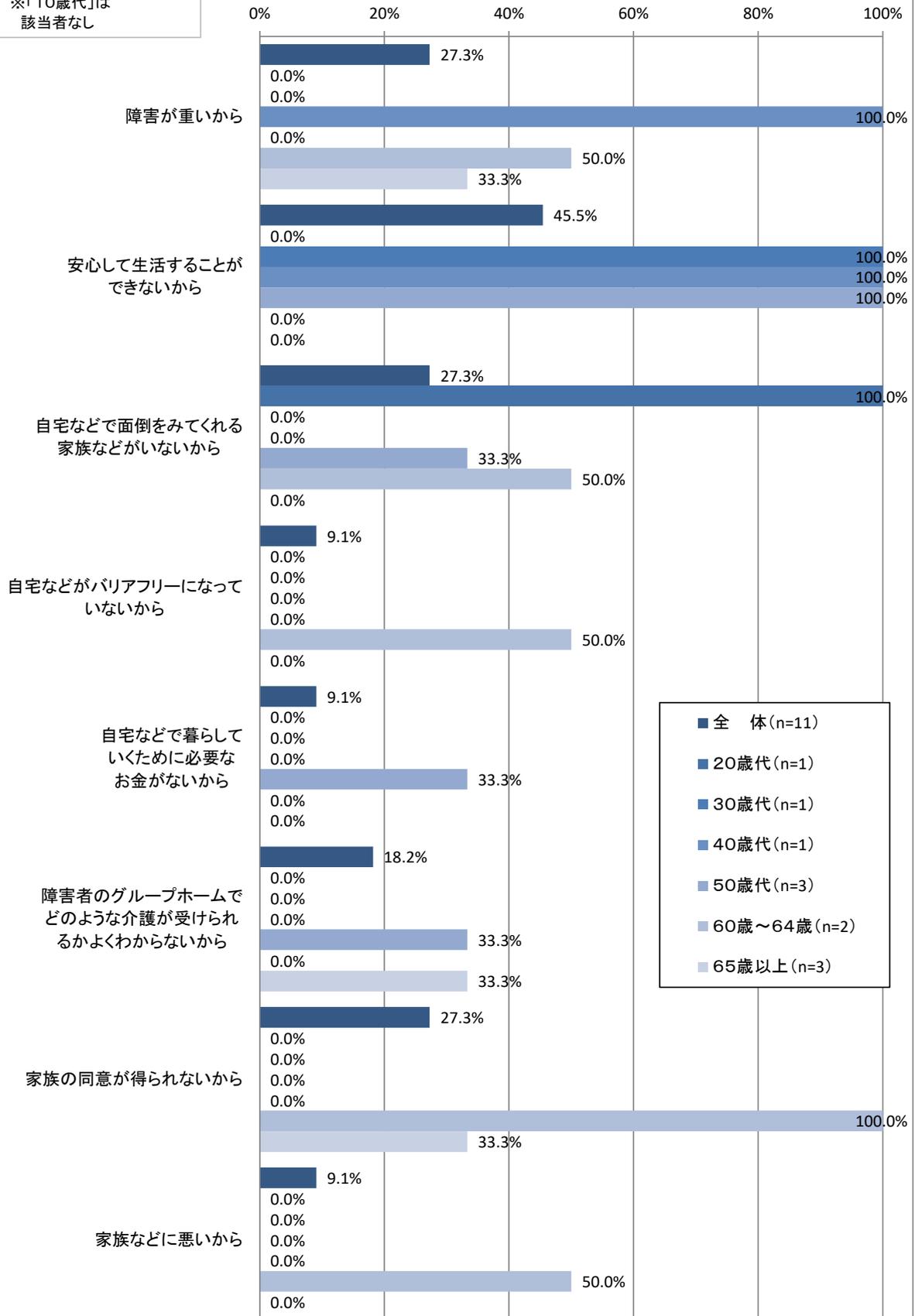
問5で「施設を退所して暮らしたい」と回答した人に、施設を退所しない、または退所できない理由を複数回答でたずねた。

「安心して生活することができないから」は、45.5%、「障害が重いから」と「自宅などで面倒をみてくれる家族などがないから」と「家族の同意が得られないから」は、27.3%である。

**【年齢別】**他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「安心して生活することができないから」は、30歳代と40歳代と50歳代が100.0%である。「障害が重いから」は、40歳代が100.0%、次に60歳～64歳が50.0%である。「自宅などで面倒をみてくれる家族などがないから」は、20歳代100.0%、次に60歳～64歳が50.0%である。「家族の同意が得られないから」は、60歳～64歳が100.0%である。

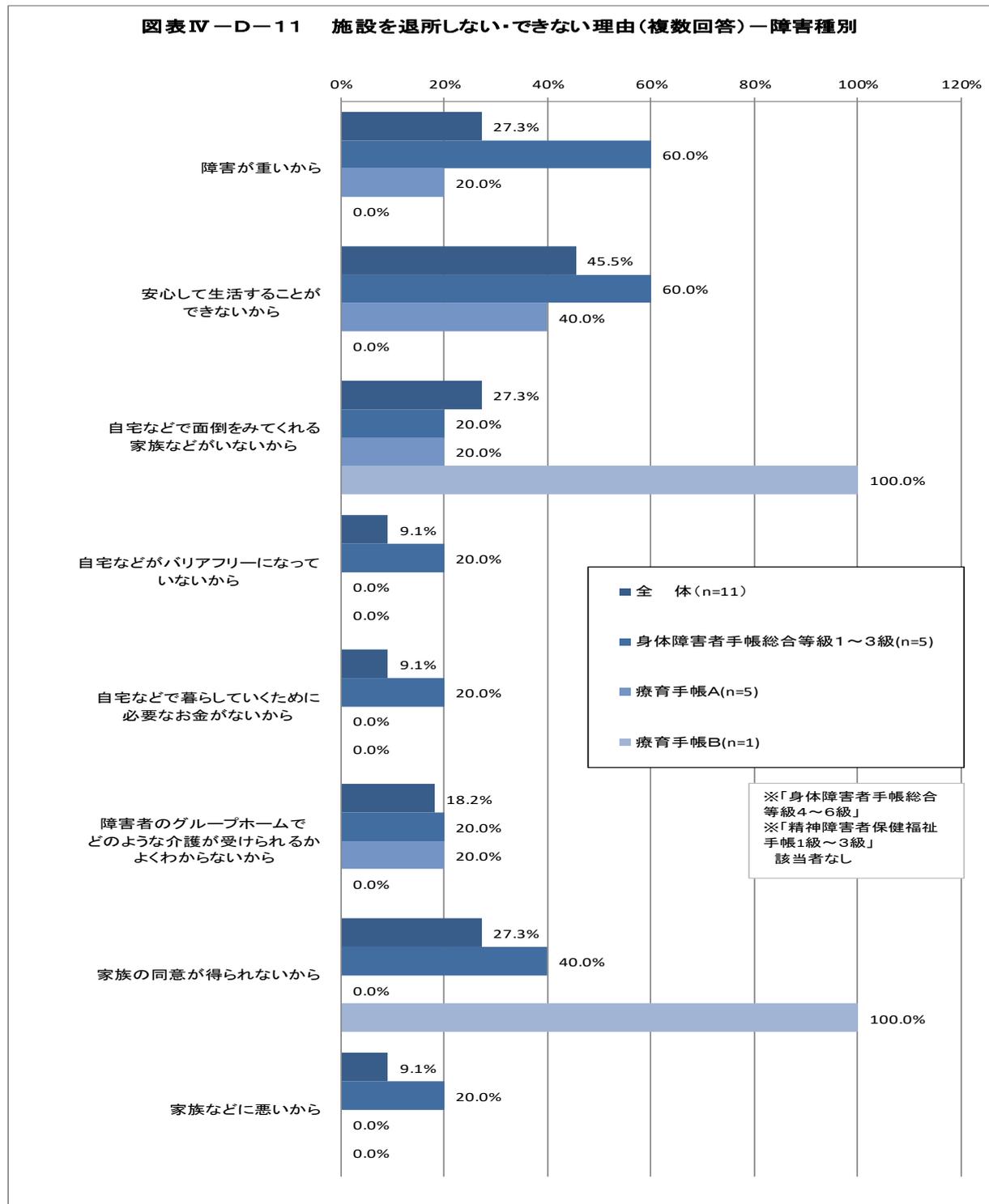
図表Ⅳ-D-10 施設を退所しない・できない理由(複数回答)一年齢別

※「10歳代」は  
該当者なし

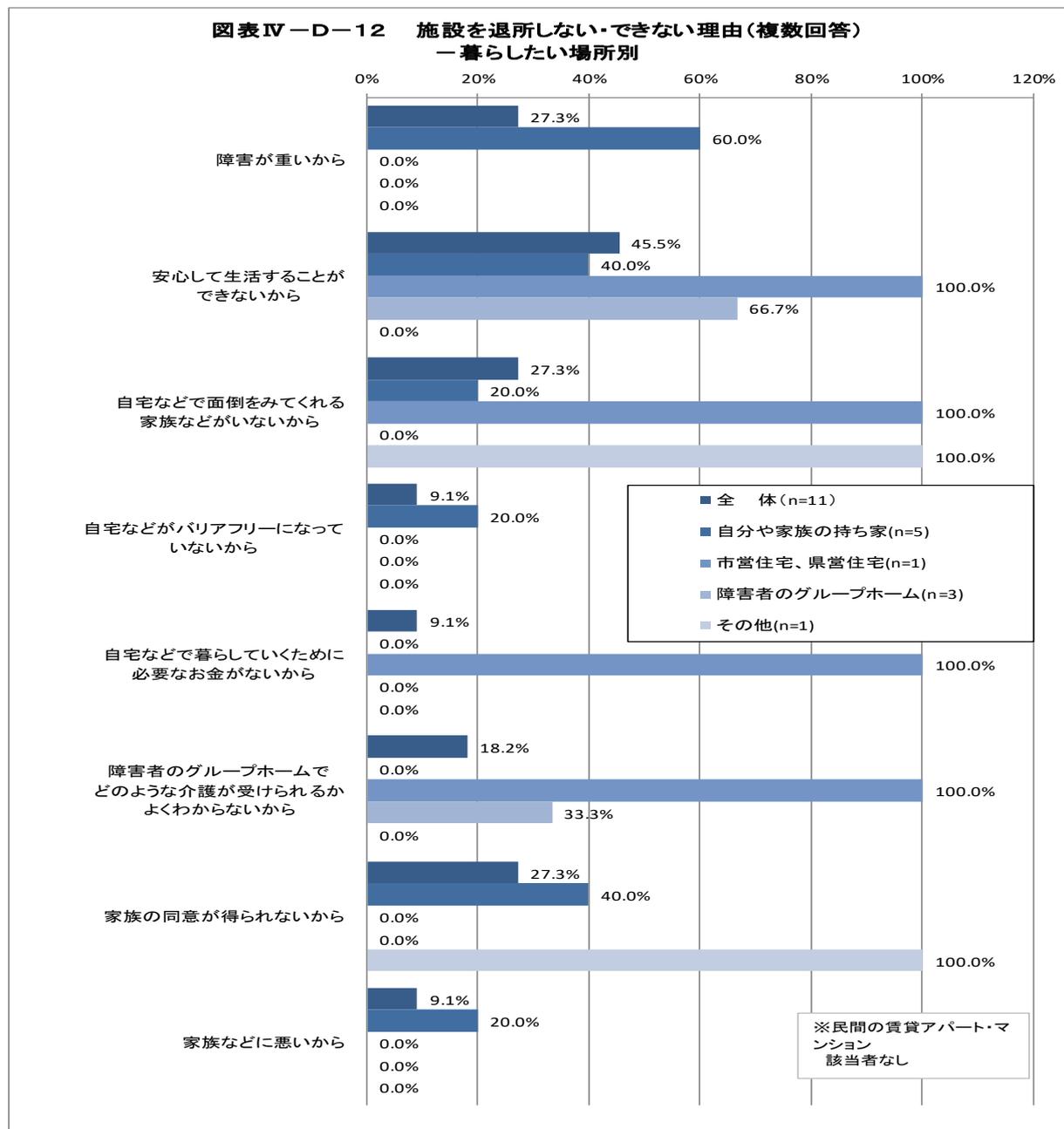


【障害種別】他の障害種別と比較して割合の高かった回答を見てみると、「安心して生活することができないから」は、身体障害者手帳総合等級1～3級が60.0%、次に療育手帳Aが40.0%である。「障害が重いから」は、身体障害者手帳総合等級1～3級が60.0%、次に療育手帳Aが20.0%である。「自宅などで面倒をみてくれる家族などがないから」は、療育手帳Bが100.0%である。「家族の同意が得られないから」は、療育手帳Bが100.0%である。

図表Ⅳ－D－11 施設を退所しない・できない理由(複数回答)－障害種別



【退所して暮らしたい場所別】他の退所して暮らしたい場所別と比較して割合の高かった回答を見てみると、「安心して生活することができないから」は、市営住宅・県営住宅が100.0%、次に障害者のグループホームが66.7%である。「自宅などで面倒をみてくれる家族などがないから」は、市営住宅・県営住宅とその他が100.0%である。「家族の同意が得られないから」は、その他が100.0%である。「障害が重いから」は、自分または家族の持ち家が60.0%である。

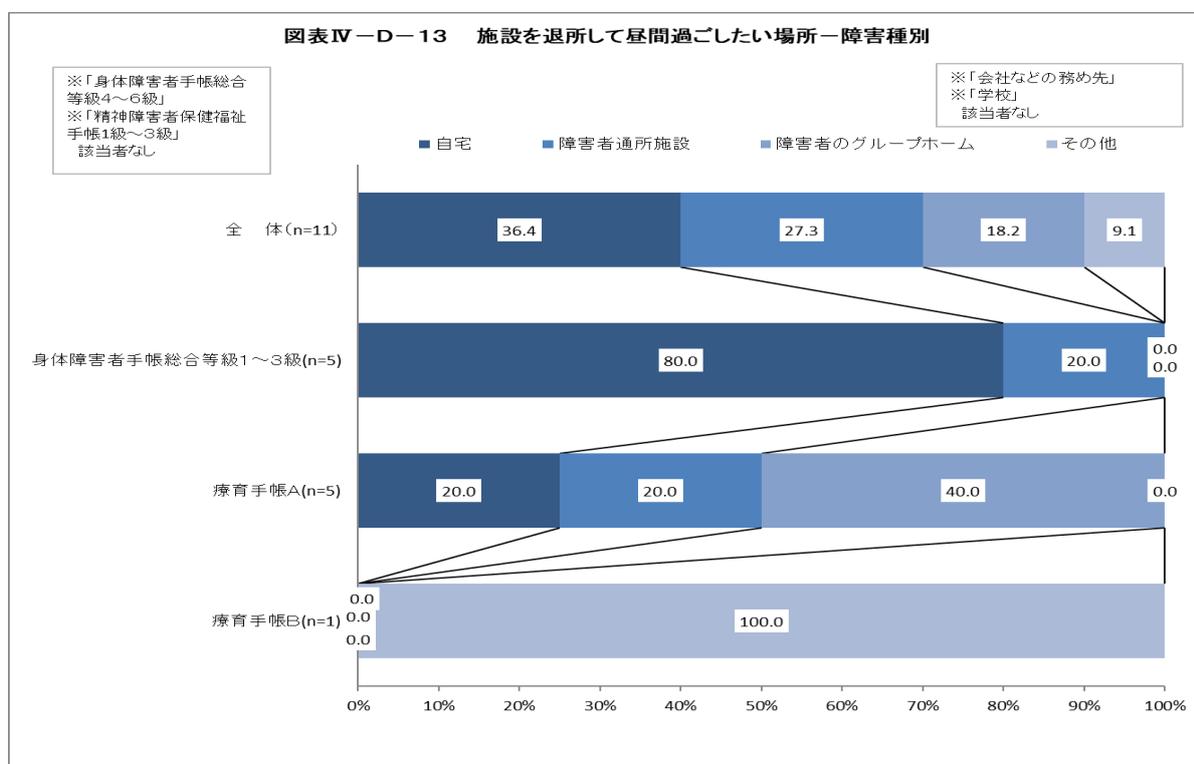


(7) 施設を退所して昼間過ごしたい場所（問10）

問5で「施設を退所して暮らしたい」と回答した人に、昼間、主にどこで過ごしたいかをたずねた。

「自宅」は、36.4%、「障害者通所施設」は、27.3%、「障害者のグループホーム」は、18.2%である。

【障害種別】他の障害種別と比較して割合の高かった回答を見てみると、「自宅」は、身体障害者手帳総合等級1～3級が80.0%、次に療育手帳Aが20.0%である。「障害者通所施設」は、身体障害者手帳総合等級1～3級と療育手帳Aが20.0%である。「障害者のグループホーム」は、療育手帳Aが40.0%である。



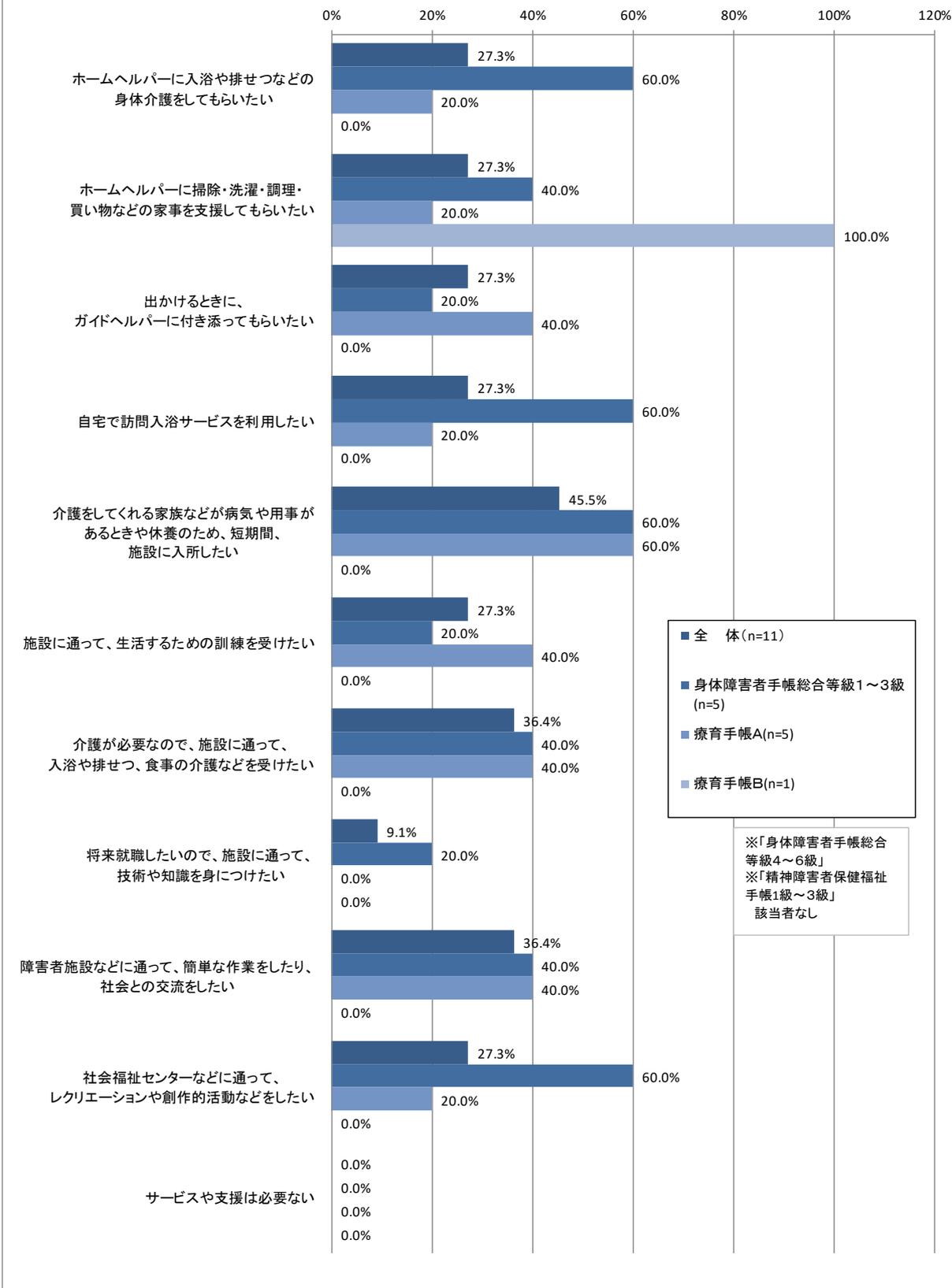
(8) 施設を退所して昼間利用したいサービスや支援（問11）

問5で「施設を退所して暮らしたい」と回答した人に、昼間、どのようなサービスや支援が必要かを複数回答でたずねた。

「介護をしてくれる家族などが病気や用事があるときや休養のため、短期間、施設に入所したい」は、45.5%、「介護が必要なので、施設に通って、入浴や排せつ、食事の介護などを受けたい」と「障害者施設などに通って、簡単な作業をしたり、社会との交流をしたい」は、36.4%である。

**【障害種別】**他の障害種別と比較して割合の高かった回答を見てみると、「介護をしてくれる家族などが病気や用事があるときや休養のため、短期間、施設に入所したい」は、身体障害者手帳総合等級1～3級と療育手帳Aが60.0%である。「介護が必要なので、施設に通って、入浴や排せつ、食事の介護などを受けたい」は、身体障害者手帳総合等級1～3級と療育手帳Aが40.0%である。「障害者施設などに通って、簡単な作業をしたり、社会との交流をしたい」は、身体障害者手帳総合等級1～3級と療育手帳Aが40.0%である。

図表Ⅳ-D-14 施設を退所して昼間利用したいサービスや支援－障害種別(複数回答)



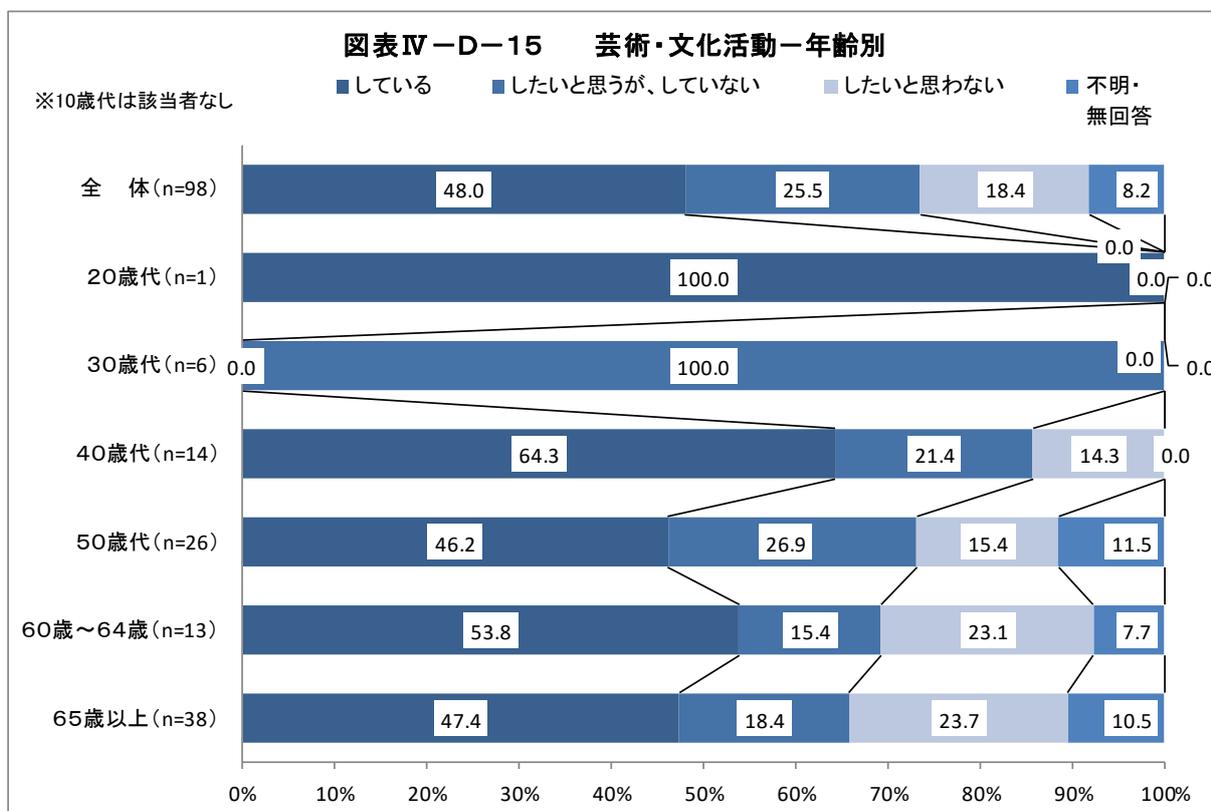
## 2 文化・スポーツについて

### (1) 芸術・文化活動の状況（問12）

現在、音楽や映画、絵画などの芸術・文化活動をしたり、見たり、聴いたりをしているかをたずねた。

「している」は、48.0%、「したいと思うが、していない」は、25.5%、「したいと思わない」は、18.4%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「している」は、20歳代が100.0%、次に40歳代が64.3%である。「したいと思うが、していない」は、30歳代が100.0%、次に50歳代が26.9%である。「したいと思わない」は、65歳以上が23.7%、次に60歳～64歳が23.1%である。年齢が上がるごとに割合が高い。

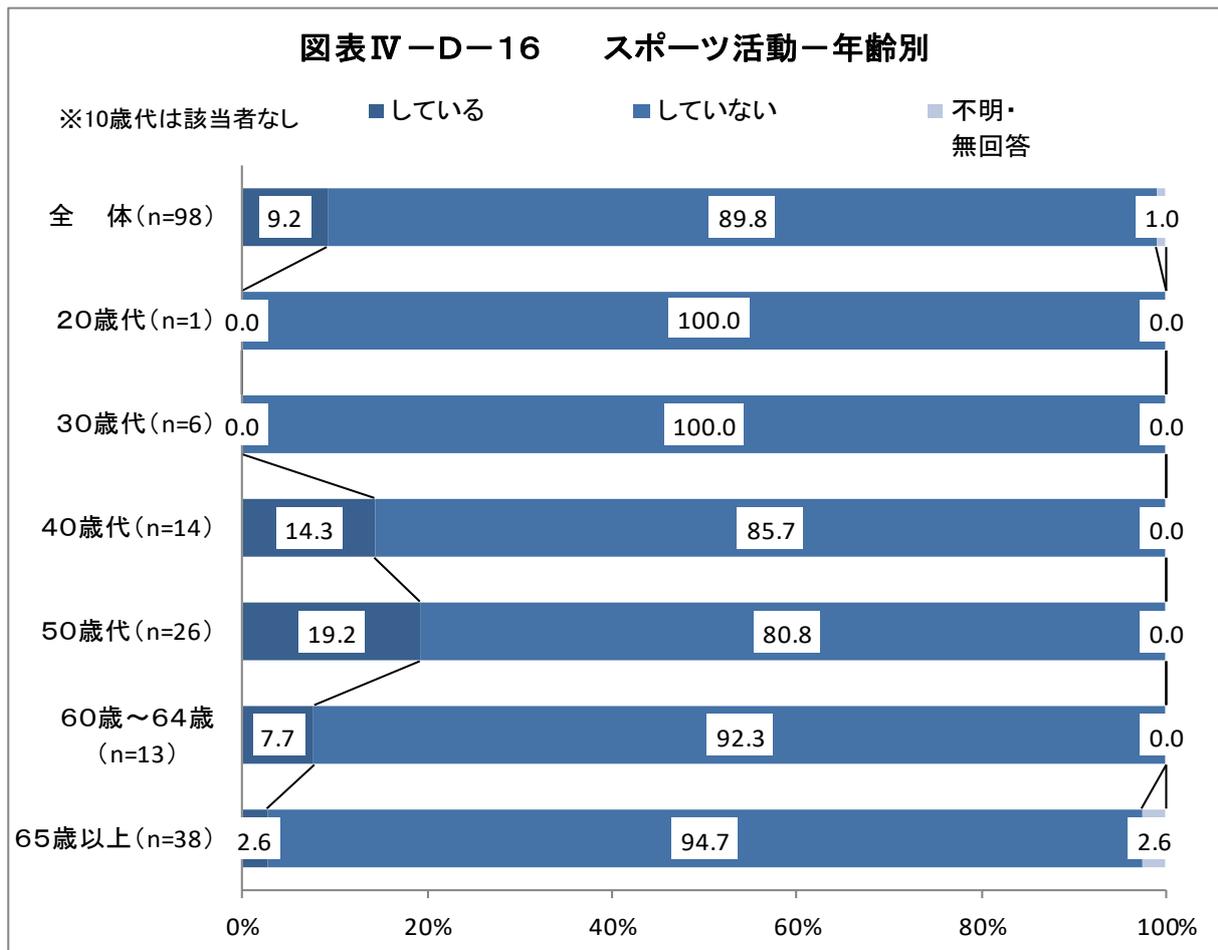


## (2) スポーツ活動の実施 (問 13)

現在、スポーツをしているかをたずねた。

「している」は、9.2%、「していない」は、89.8%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「している」は、50歳代が19.2%、次に40歳代が14.3%である。「していない」は、20歳代と30歳代が100.0%、次に65歳以上が94.7%である。

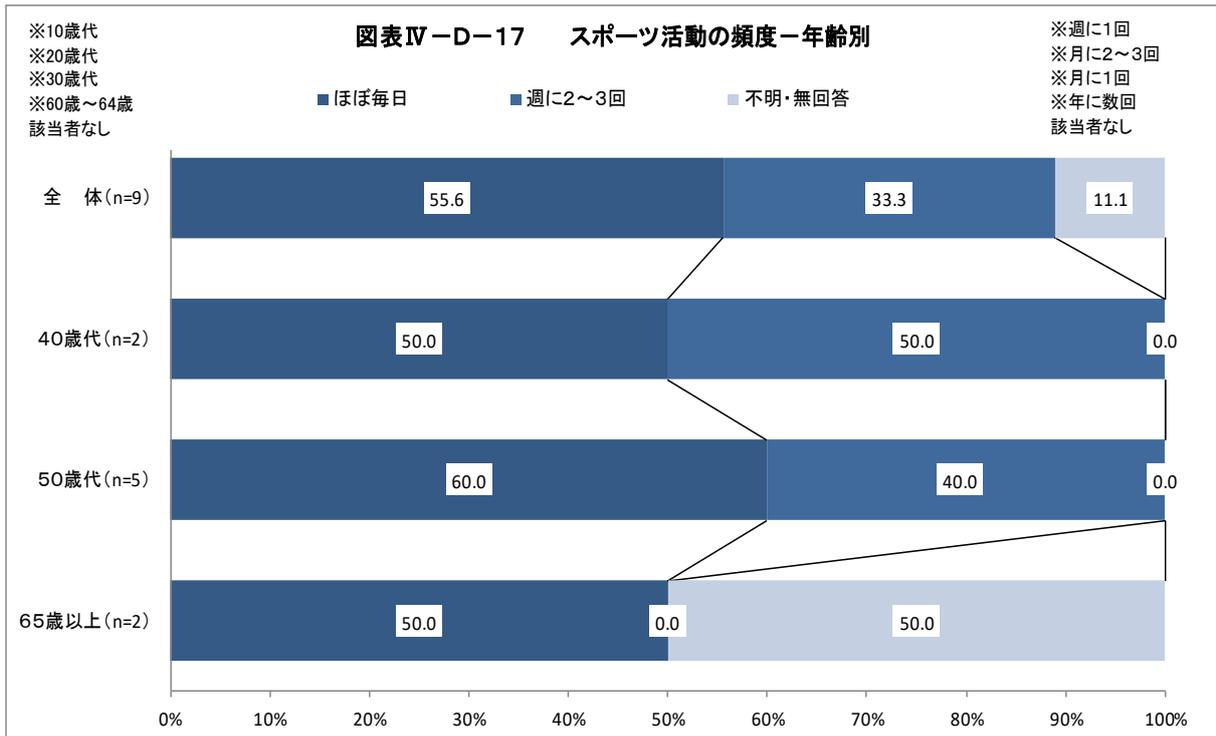


(3) スポーツ活動の頻度 (問 1 4)

問 1 3 で「している」と回答した人に、どのくらいしているかをたずねた。

「ほぼ毎日」は、55.6%、「週に 2 ～ 3 回」は、33.3%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「ほぼ毎日」は、50 歳代が 60.0%、次に 40 歳代と 65 歳以上が 50.0%である。「週に 2 ～ 3 回」は、40 歳が 50.0%、次に 50 歳代が 40.0%である。

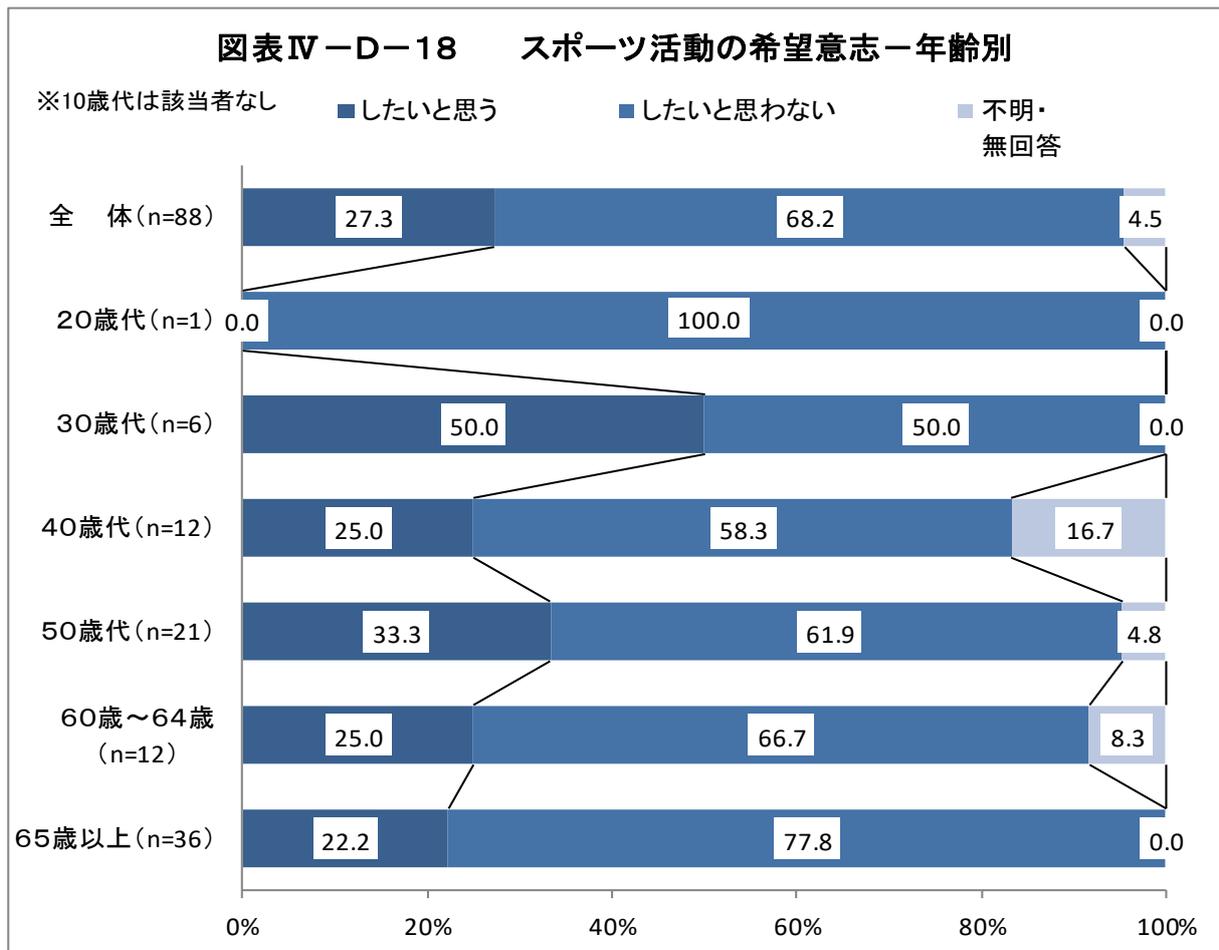


#### (4) スポーツ活動をしたい希望意志（問15）

問13で「していない」と回答した人に、したいと思うかをたずねた。

「したいと思う」は、27.3%、「したいと思わない」は、68.2%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「したいと思う」は、30歳代が50.0%、次に50歳代が33.3%である。一方「したいと思わない」は、20歳代が100.0%、次に65歳以上が77.8%である。



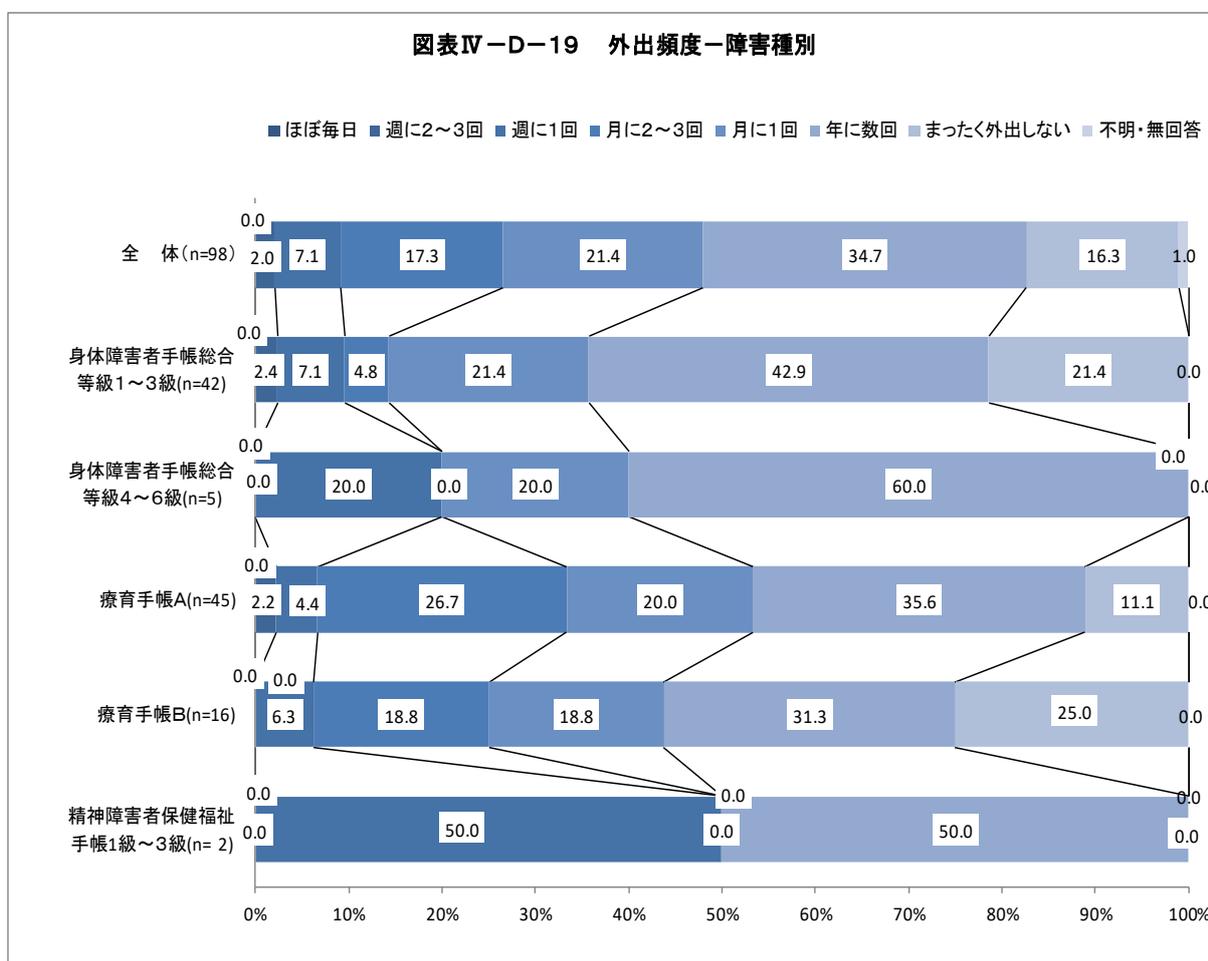
### 3 外出について

#### (1) 外出頻度 (問16)

現在、どのくらい外出(暮らしている場所から外に出ること)しているかをたずねた。

「年に数回」は、34.7%、「月に1回」は、21.4%、「月に2～3回」は、17.3%、「まったく外出しない」は、16.3%である。

【障害種別】他の障害種別と比較して割合の高かった回答を見てみると、「年に数回」は、身体障害者手帳総合等級4～6級が60.0%、次に精神障害者保健福祉手帳1～3級が50.0%である。「月に1回」は、身体障害者手帳総合等級1～3級が21.4%、次に身体障害者手帳総合等級4～6級と療育手帳Aが20.0%である。「月に2～3回」は、療育手帳Aが26.7%、次に療育手帳Bが18.8%である。「まったく外出しない」は、療育手帳Bが25.0%、次に身体障害者手帳総合等級1～3級が21.4%である。



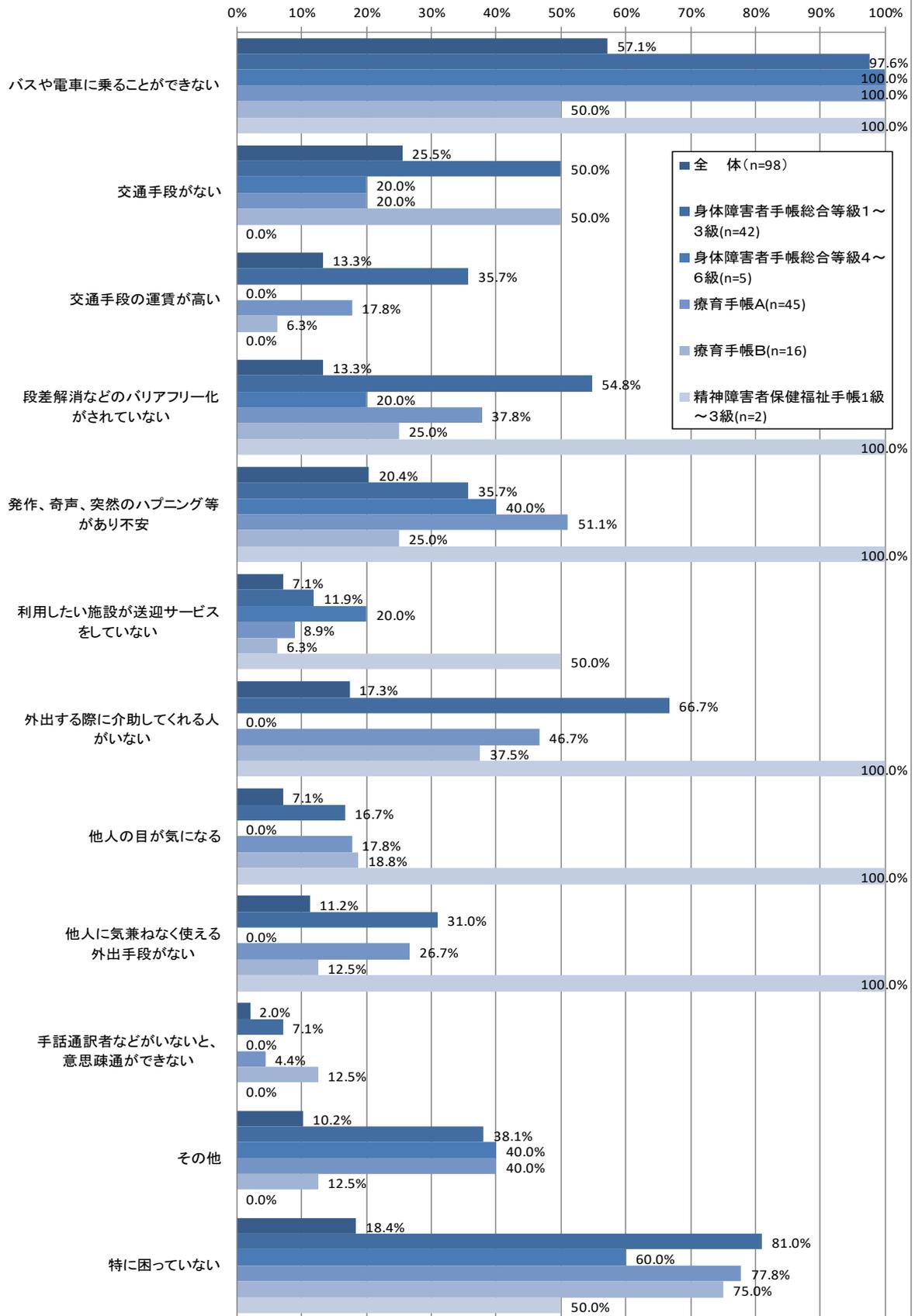
## (2) 外出時に困っていること (問17)

外出時に困っていることを複数回答でたずねた。

「バスや電車に乗ることができない」は、57.1%、「交通手段がない」は、25.5%、「発作、奇声、突然のハプニング等があり不安」は、20.4%、「特に困っていない」は、18.4%、「外出する際に介助してくれる人がいない」は、17.3%である。

**【障害種別】**他の障害種別と比較して割合の高かった回答を見てみると、「バスや電車に乗ることができない」は、身体障害者手帳総合等級4～6級と療育手帳Aと精神障害者保健福祉手帳1～3級が100.0%、身体障害者手帳総合等級1～3級が97.6%である。「交通手段がない」は、身体障害者手帳総合等級1～3級と療育手帳Bが50.0%である。「発作、奇声、突然のハプニング等があり不安」は、精神障害者保健福祉手帳1～3級が100.0%、次に療育手帳Aが51.1%である。「特に困っていない」は、身体障害者手帳総合等級1～3級が81.0%、次に療育手帳Aが77.8%である。

図表Ⅳ-D-20 外出時に困っていること-障害種別(複数回答)



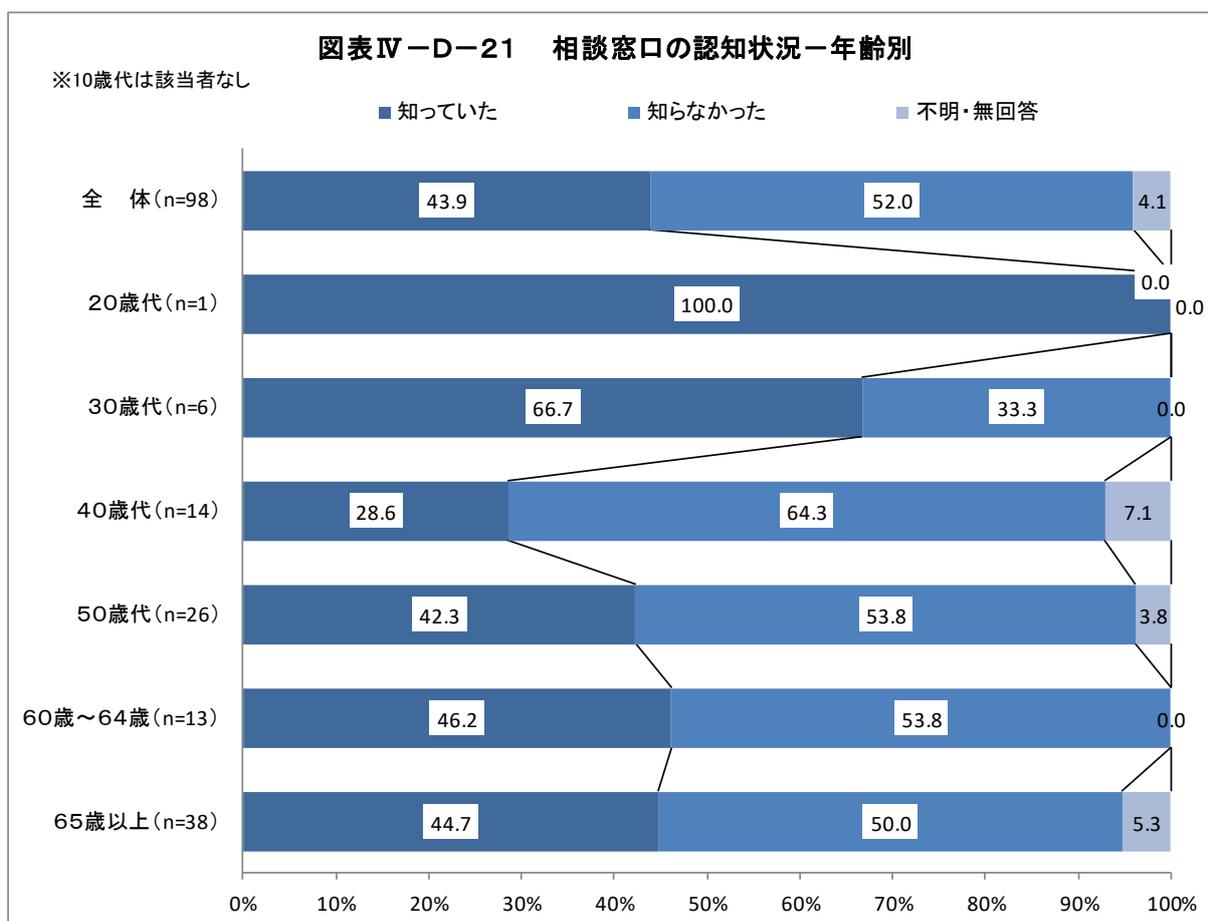
#### 4 相談窓口について

##### (1) 相談窓口の認知状況（問18）

相談窓口（障害者相談支援センター、障害者地域生活支援センター、障害者就業・生活支援センター、身体障害者相談員・知的障害者相談員）とその内容について、一覧表示し、このような相談窓口を知っていたかをたずねた。

「知っていた」は、43.9%、「知らなかった」は、52.0%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「知っていた」は、20歳代が100.0%、次に30歳代が66.7%である。一方「知らなかった」は、40歳代が64.3%、次に50歳代と60歳～64歳が53.8%である。

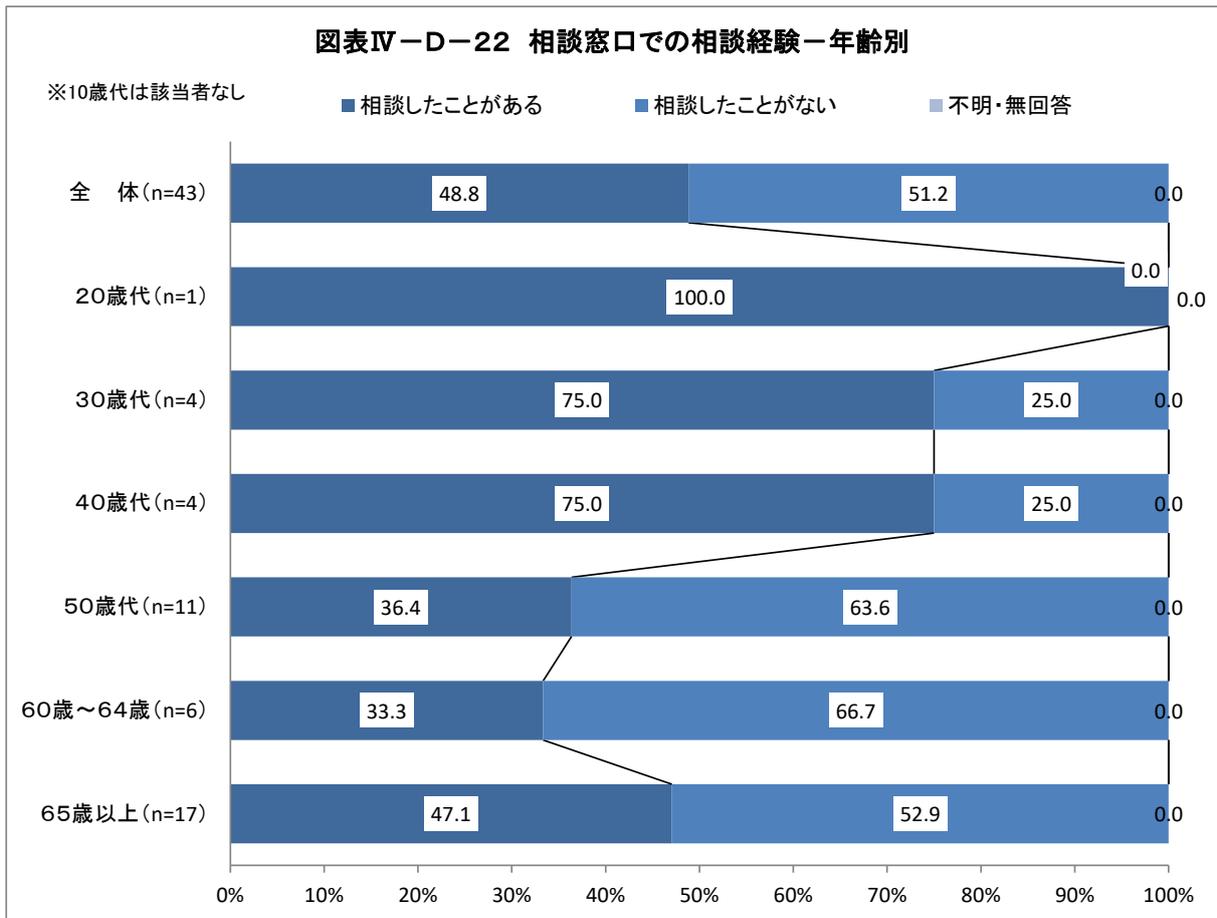


(2) 相談窓口での相談経験 (問19)

問18で「知っていた」と回答した人に、困ったことや悩みごとを相談窓口で相談したことがあるかをたずねた。

「相談したことがない」は、51.2%、「相談したことがある」は、48.8%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「相談したことがない」は、60歳～64歳が66.7%、次に50歳代が63.6%である。一方「相談したことがある」は、20歳代が100.0%、次に30歳代と40歳代が75.0%である。

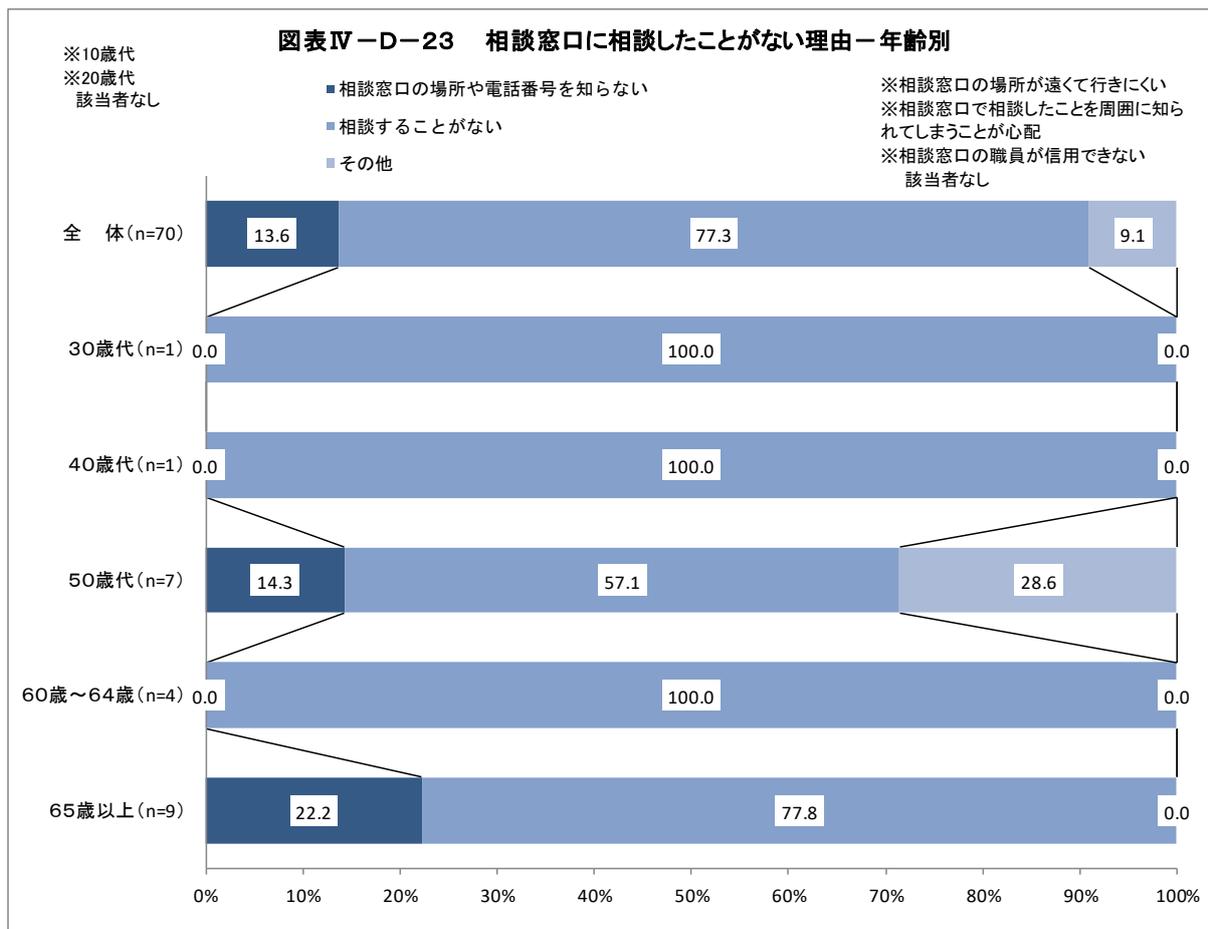


### (3) 相談窓口に相談したことがない理由（問20）

問19で「相談したことがない」と回答した人に、その理由をたずねた。

「相談することがない」は、77.3%、「相談窓口の場所や電話番号を知らない」は、13.6%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「相談することがない」は、30歳代と40歳代と60歳～64歳が100.0%、次に65歳以上が77.8%である。「相談窓口の場所や電話番号を知らない」は、65歳以上が22.2%、50歳代が14.3%である。



## 5 障害のある人への差別について

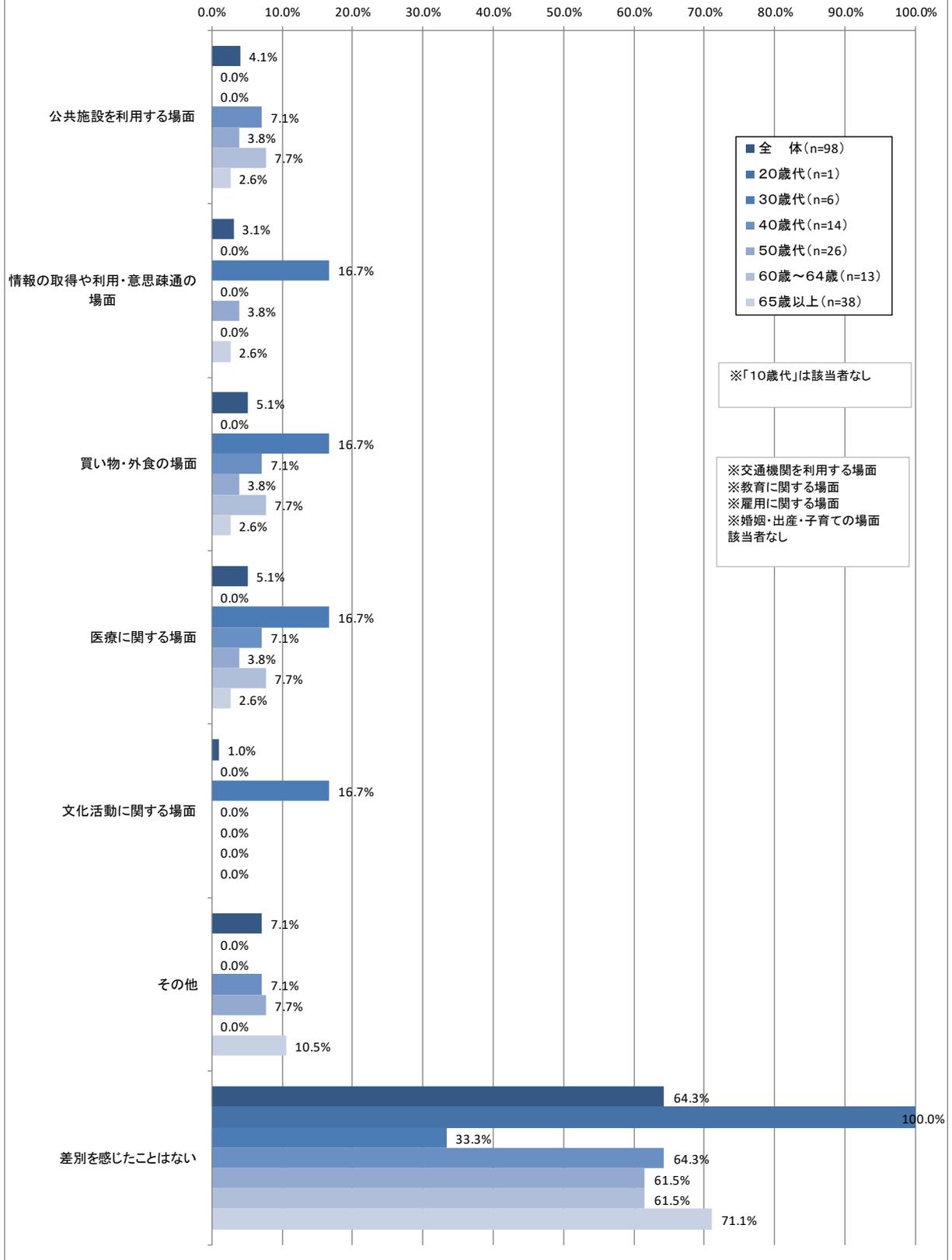
### (1) 障害を理由として差別されたと感じた場面（問21）

過去3年の間に、障害を理由として差別されたと感じた場面は何かを複数回答でたずねた。

「差別を感じたことはない」は、64.3%、「買い物・外食の場面」と「医療に関する場面」は、5.1%、「公共施設を利用する場面」は、4.1%である。

**【年齢別】**他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「差別を感じたことはない」は、20歳代が100.0%、次に65歳以上が71.1%である。「買い物・外食の場面」は、30歳代が16.7%、次に60歳～64歳が7.7%である。「医療に関する場面」は、30歳代が16.7%、次に60歳～64歳が7.7%である。「公共施設を利用する場面」は、60歳～64歳が7.7%、次に40歳代が7.1%である。

図表Ⅳ-D-24 障がい差別と感じた場面一年齢別(複数回答)

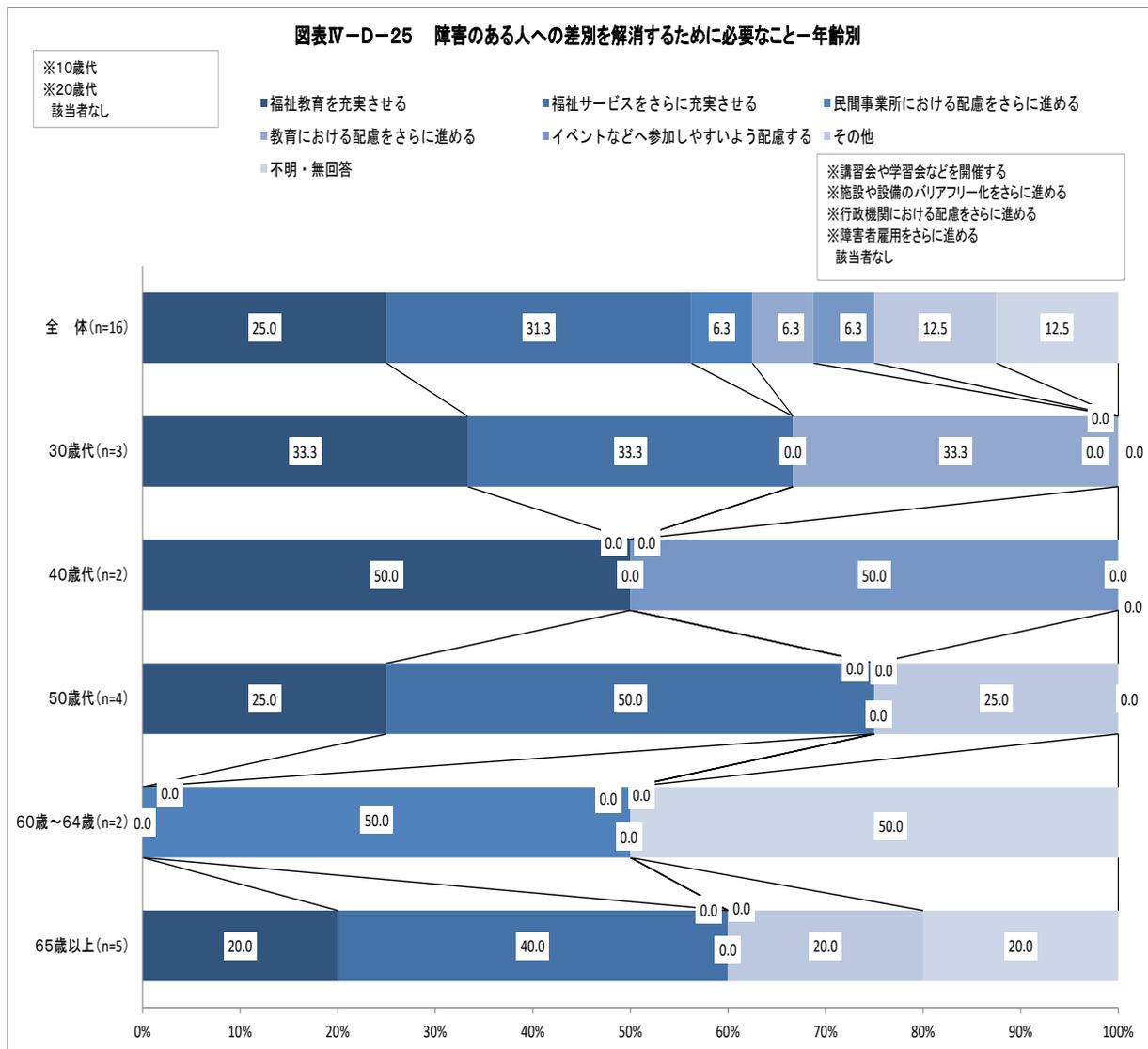


(2) 障害のある人への差別を解消するために必要と考えること（問22）

障害のある人への差別を解消するために必要と考えることは何かをたずねた。

「福祉サービスをさらに充実させる」は、31.3%、「福祉教育を充実させる」は、25.0%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「福祉サービスをさらに充実させる」は、50歳代が50.0%、次に65歳以上が40.0%である。「福祉教育を充実させる」は、40歳代が50.0%、次に30歳代が33.3%である。「イベントなどへ参加しやすいよう配慮する」は、40歳代が50.0%である。



## 6 社会生活について

### (1) 社会生活を営む上で必要と考えること（問23）

障害がある人が社会生活を営む上で最も必要と考えるものをたずねた。

「生活環境の整備」は、20.4%、「障害福祉サービスの充実」は、16.3%、「社会的な理解の促進」は、15.3%、「余暇活動の充実」は、14.3%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「生活環境の整備」は、40歳代が35.7%、次に50歳代が26.9%である。「障害福祉サービスの充実」は、60歳～64歳が23.1%、次に40歳代が21.4%である。「社会的な理解の促進」は、20歳代が100.0%、次に30歳代が33.3%である。「余暇活動の充実」は、40歳代が21.4%、次に65歳以上が15.8%である。

